

第3回市民会議 グループ討議 模造紙（まとめ）

最初の全体での意見交換

- ・まちづくり探検隊の成果はどう総計に反映されたのか？
- ・市民会議の成果を反映させる方法は？
- ・他都市事例では、どの程度反映されたのか？
- ・策定委員会はどのようにするのか？
- ・行政における作業スケジュールは？
- ・市民提案と行政とのギャップをうめる方策（キャッチボール）
- ・市民提案を反映させる方策を提案していく。
- ・総計審もなくても良いのでは？
- ・パブリックコメントのように市から回答してもらおう。
- ・市民満足度調査を材料にしたい。
- ・現状の到達度を知る（4次総計）
- ・現状を踏まえる必要がある。（現在の事業）
- ・中間報告は市民向け or 行政向け。
- ・コミュニティ会議との連携い。

Aグループ

意見集約

- ・基本構想は、前回の見直し（程度）でよい。
- ・他市視察・類似自治体の研究
- ・市民の意見
 - 1) まず本人自身の考え方、希望
 - 2) 本人の所属しているグループの希望、他
- ・市長、市民対話集会のテーマとして、市民会議を取りあげる。
- ・全体会議の議事録をHP等を通じて公開し、パブリック・コメントの手法で毎回意見を募る。
- ・パブコメを実施する。
- ・方法は、パブリックコメント。
- ・自治会等、地域のコミュニティを利用する。
- ・コミセン等のコミュニティ会議を活用する。

- ・コミュニティ会議より意見をすい上げる。
- ・現状の不満点を抽出する アンケート実施
- ・アンケートの内容(・箕面のいいところ・箕面の悪いところ・箕面以外に住んでみたい街)
 - アンケートの取り方、多数者以外も対称にして利用したくてもできない人たちなど。
- ・市民会議の分科会を立ち上げる前(今すぐ)現状(不安、夢、希望)アンケート作業を行う。
- ・市民アンケートを実施する。
- ・小学校等で子どもたちの意見のためアンケートを実施する。
- ・福祉、現場で働いている人、利用している人、家族の意見、希望を聞きに行きたい。
- ・街頭アンケート(インタビュー)「各地にちらばって 人ずつ声を集める」とか。
- ・街角アンケートを行う。
- ・まつり、イベントでちらしをまく。
- ・市民の意見
 - 3) 自ら(or あるグループ)で地域から吸収する。(かたよりがあってもよい)
- ・市民活動センターのNPOほっとテーブルを利用する。
- ・各施設の利用者協議会を活用する。
- ・「こうありたい、暮らしたい」市民の要望をアンケート等を通じて収集し、全体会議に反映する。
- ・幅広い市民意見をとるには、各地域毎のアンケートが効果的であると思う。
- ・2チャンネルを活用する。
- ・ミクシィを活用する。
- ・分科会の結論を市民に紹介し意見を集める。
 - 1) コミュニティ会議
 - 2) パブリックコメント
 - 3) 自治会
 - 4) もみじだより+ハガキ(手紙)
 - 5) 市民グループ+市民組織+民生委員 e t c
- ・今まで集められている意見を市民会議へ(アンケート他)フィードバックする。
- ・成人祭でアンケート。
- ・若い世代(20代~40代)の意見を広く集約する工夫が必要だ。

- ・小中学校 親よりの意見。
- ・市民会議とは？又、皆さんより出た意見等は、いかに生かされるのか？
ただ参考にするだけですか？ 行政のどの部？

分科会

- ・キーワードをいくつか並べて、希望者の数の多い順から分科会を作る。
- ・分野・ジャンルごとに分科会を設定してから希望者を集める。
- ・前回の分科会から選び出す。
- ・分科会 財政、福祉、温暖化防止
- ・分科会 1) 建造物の高さ、デザインなど
- ・分科会 2) 交通移動 公共交通をべんりにせよ。
コミュニティ
エコ、環境 etc)
- ・分科会 市民の声をいかに吸収するか等の(検討)分科会を立上げる。
- ・全体会議も重要だがその間の分科会毎の意見交換は重要。
- ・分科会には、各リーダー？的存在が必要では？
- ・原則、第4次総計の中項目8つを分科会単独で見直す。
- ・行政直面 分科会
 - 1) 「前提」を分科会間で共有 ex 財政状況、期間 et c
 - 2) 全体会議で「(基本)構想」(大テーマ)を決め、それに従って分かれる。
- ・行政の部局ごとにテーマがあると思うので・・・
- ・行政のたて割りで分科会をやるのは、おもしろくないと思う。市民会議だからやっぱりやりたいと思うことに積極的意見がでるだろうから。希望の分野で分科会をつくる。

Bグループ

- ・弱いところを強くするのか？強いところをより強くするか？
- ・分科会のテーマごとに、市民の意見を集約してみる。
- ・「市民会議の未来について」の分科会
- ・分科会は、自分の希望を出して深める。

- ・提言書のイメージが共有できていない。
- ・会長がない方がよい。
- ・市民会議の土台についても振れている。

- ・お金がないのに夢が語れるの？
- ・4次統計の経費について検証が必要。

Cグループ

意見聴取（考え方）

- ・意見を求めるだけでなく、こちらからの説明、啓発が必要。
- ・インターネットかアンケートのような一方向発信だけでなく、直接市民と対話することが必要！！
- ・情報発信は常に必要。
- ・キホン Face to Face
- ・ものごとの狭い事業の市民だけに意見を聞くのではなく、すべての市民が関係者！！
- ・住民意見に対して市民会議の回答、聞きっぱなしでない姿勢が大切。
- ・対立する政策は（市民対市民）お互いの意見を交流する場が必要。

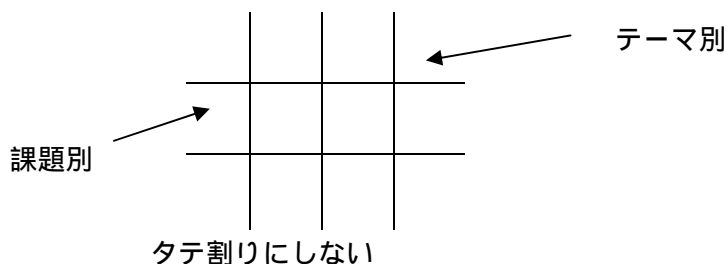
手法

- ・対話集会（集約？へ）
- ・現場を歩く。聞く。
- ・「市政白書？」へのハブコメを行う。
- ・もみじだよりを活用し、意見を求める。
- ・アンケートをとる。
- ・コミセンなどに目安箱的な意見投入箱を設ける。
- ・提言書の（正）とする案の段階で、市民意見を聞く。広報する。
- ・関係団体にアンケートまたは、話を聞く。
- ・小学生、中学生に夢を語ってもらう。
- ・もみじ便とHPでハブコメ集める。

- ・市民満足度アンケートをベースに議論。
- ・市民会議主催の説明会の実施。
- ・コミュニティに聞きに行く。
- ・小・中学校のPTAから話を聞く。または、代表何名かにアンケートをとる。
- ・意見の集約
- ・PTA・自治会・社協の団体の市への要望・意見を山に積む
- ・市のパブコメへの市の見解も。
- ・市への市民要望なども。
- ・アンケート ・自治会 ・サークル ・自らのネットワーク
- ・広報（インターネットで情報を出して募る）
- ・アンケート（ニーズ、方向性の把握） HP、紙
 - + 説明会（NPO、RT、自治会）
 - ↳ 声（多様なアイデア）
- ・各小学校区ごとに地域の方のもっている意見を聞く場をもってみては。
- ・タッキー816の放送を活用し広報を行い、意見を求める。
- ・地域の会議の時間を借りて（地区福祉会、コミュニティ会議、他）
- ・子育てひろばみたいなどころに行ってみる。
- ・市民意見の集約。自分のまわりの近い人から聞いてみる。家族、近所。
- ・対話集会。シンポジウムは有効です。
- ・意見のありそうな人をパネラーにして言いたいことを言ってもらう。

分科会のあり方

- ・テーマ別の分科会や課題別など



- ・政策での分類にわけ
- ・市民性の育成を考える分科会も必要。
- ・たて割りの行政にならない、横割りの分科会が必要。
- ・提言書の方向性を出したうえで、それに基づいた分科会。
- ・市民から上がってきた意見を集約して、分科会の設置を考える。
- ・<つくり方>
 - ・タテ割りと総合性
 - ・校区単位、地域
 - ・要望をもった つくる。

参加の仕方

- ・自分でできる範囲で、分科会を始めてみて、データを集めてみる。
- ・興味のある分野とない分野を掛け持ちする。
- ・アンケートで希望調査 班分け
- ・興味関心分野 + 全く知らない分野 割合 1:2
- ・複数入れる。
複数入った人が情報提供。
- ・知識ある人ばかりの議論とならないように

その他

- ・専門委員に積極的に市民会議に出てもらおう。

活動のゴール

- ・基本構想と総合計画の違いをもっと説明、議論した方が良いのでは？
- ・市民会議が審議会への諮問案を作成する。
- ・市民会議が5総計(案)まで考える。
- ・100歩ゆずって市議会と審議会はあってもいい。
- ・ゴールは5総計(案)をめざすこと。
- ・策定委員会は不要。
- ・構想と計画(10~15年)

プロセス

- ・中間報告の前にも市民への公表と意見聴取が必要。
 - ・将来イメージ 実現可能性 課題抽出
 - ・行政と市民のキャッチボールの行程をとること。
 - ・3月にしぼられない。(3月は市民会議内のとりまとめ)
 - ・メンバーの人数考える。
 - ・行政も案を出す日程を明らかにする。
- <3月まで>
- ・期間が短い?
 - ・2~3月、まとめへ提言。
 - ・それまで多様に

Dグループ

第5次統計の進め方（流れ）プロセス

- ・第4次総合計画の市民の目（？）からの評価
- ・市民会議の結論が第5次統計に反映されることの保証が必要。その確信なしには、真面目に取りくめない。
- ・次の10年の課題は？予想される事態は？討議 総合会議
- ・第4次の進捗。この10年で箕面市はどう変わったか？討議、市職含む。
- ・この10年間を総括。第4次計画の検証。
- ・プロセスについて仮のプロセスでスタートし途中で練りなおそう。
- ・総合計画も現状からの継続性が大事なので、現状についてもっと勉強する。
- ・プロセス（活動の流れ）
 - ・各分科会の設置 勉強会
 - ・現場訪問＝話を聞く（商店街・学校・医療・etc） 意見集約 発表
- ・問題・課題のピックアップ
 - どのようにすれば、その問題が解決していくのかを考え、提示する。
- ・財政問題に関する分科会が必要。
- ・総合計画の前提が必要。財政・人口・構成

- ・枝と幹の関係づくり。

集約の方法

- ・最後は、議会に決定権があるので、市会議員の思いも聞きたい。
- ・できるだけ早い段階で市民にアンケートなどを行う。それをもとに、事業の優先順位をつける。
- ・企業・スーパー等のタイアップできるところでスペースを借りて、意見ブース（コーナー）を設けて広く市民の意見をひろう。
- ・内容、テーマごとに集約 各部署との連絡をとっている団体・組織
 - 例 公団みどり 山ろく
 - アドプト
- ・できるだけ多くの市民意見に 市民団体（NPOなど）の代表へアンケート図る。
- ・市民意見の吸い上げ方 周りの方10人以上に意見を聞く。
 - むやみに他の意見に埋没しないで、自信をもって意見を出そう。
- ・小中学校の生徒会へ、箕面市の未来像やまちづくりについての意見をもらう。
- ・子どもの視点 小中学校に赴く聞き取り調査 将来のイメージ作文や絵を書いてもらう。
- ・若い人の意見も集約する。小・中・高校でアンケート、インタビュー
- ・学校を利用して、イベントなどを開き、生徒と保護者に興味をもってもらう。

・まちづくりイベント?みのおのこれからについて。

・パブコメで照会

・市民満足度アンケートの結果活用

・各分科会に関係する団体へのアンケート インタビュー

(NPO・自治会・学生・高齢者)

・街中で無差別にインタビュー

・市民がすること(できること)、行政がすること。協働ですること。のどこを決めるのか?

その他

・現状の確認 理想形の提案 ギャップをうめる手段方法

・他人のことを考える。

・分科会 一人複数テーマに参加できるように

関心のあることをキーワード化、分類し、各分科会に

・個人・団体とのすみわけ

・まず、何故市民からの多様な声が上がりにくいかを(アンケートのあり方等も含めて)調べる。多様 声が上がりにくい街づくりへの投資。

・検討すべきテーマを決める。全てか、一部でよいのか。

・市民の視点で何なのかを考えてみる。

・定性的な夢ばかりを語ることにしないようにする。定量的な目標設定が重要。

・普通、平均の取り方。

・統計策定及び実施する。システムの提案。

・リーディングプロジェクトを柱として提案。(個別施策はキリがない。むしろ個別の計画を複合的に展開する。LPを。)